

# 緊急時環境放射線モニタリング(水産物)

## はじめに

平成23年3月に発生した東京電力福島第一原子力発電所の事故により、福島県の魚介類から国の基準値を超える放射性セシウムが検出されたことから、福島県の沿岸漁業は、事故から約6年を経過した現在でも操業が自粛されています。福島県では、魚介類への放射能の影響を詳細に調べ、これまでに得られた科学的データに基づき、安全が確認された魚介類から試験的な操業を開始しています。

## モニタリング検査のながれ

水産試験場の調査船や漁業者の協力により、毎週150~200検体の魚介類を採取して放射性セシウムの検査を行っています。



採取した魚介類は、水産試験場で大きさや性別、食べている餌などを調べた後、切り身状態にして検査機関(福島県農業総合センター)に運びます。検査機関ではゲルマニウム半導体検出器により放射性セシウムを測定します。

## まとめ

・海産魚介類の放射性セシウム濃度は明確に低下しており、平成27年4月以降、国の基準値(100Bq/kg)を超える検体は確認されていません。

・今後も安全性の確保及び出荷制限の解除のため、モニタリング検査を継続する予定となっています。

## モニタリング検査結果の概要

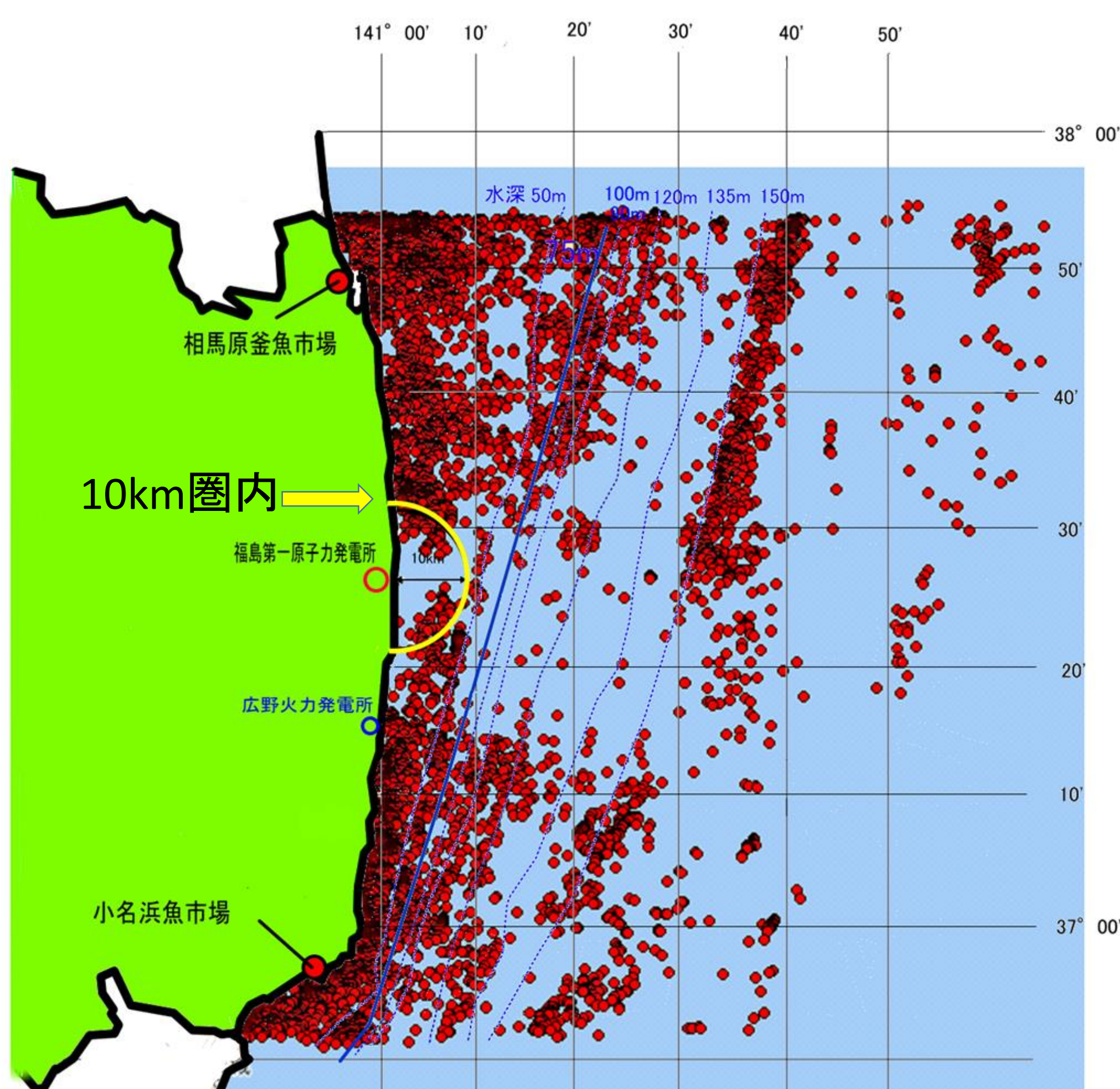


図 モニタリング検体採取位置

これまでに、194種の魚介類、合計約4万7千検体を測定しています(H29.10現在)。また、福島沖の非常に広範囲で検体を採取しており、福島第一原子力発電所から10km圏内でも検査を実施しています。

### 「検査した魚介類の例」

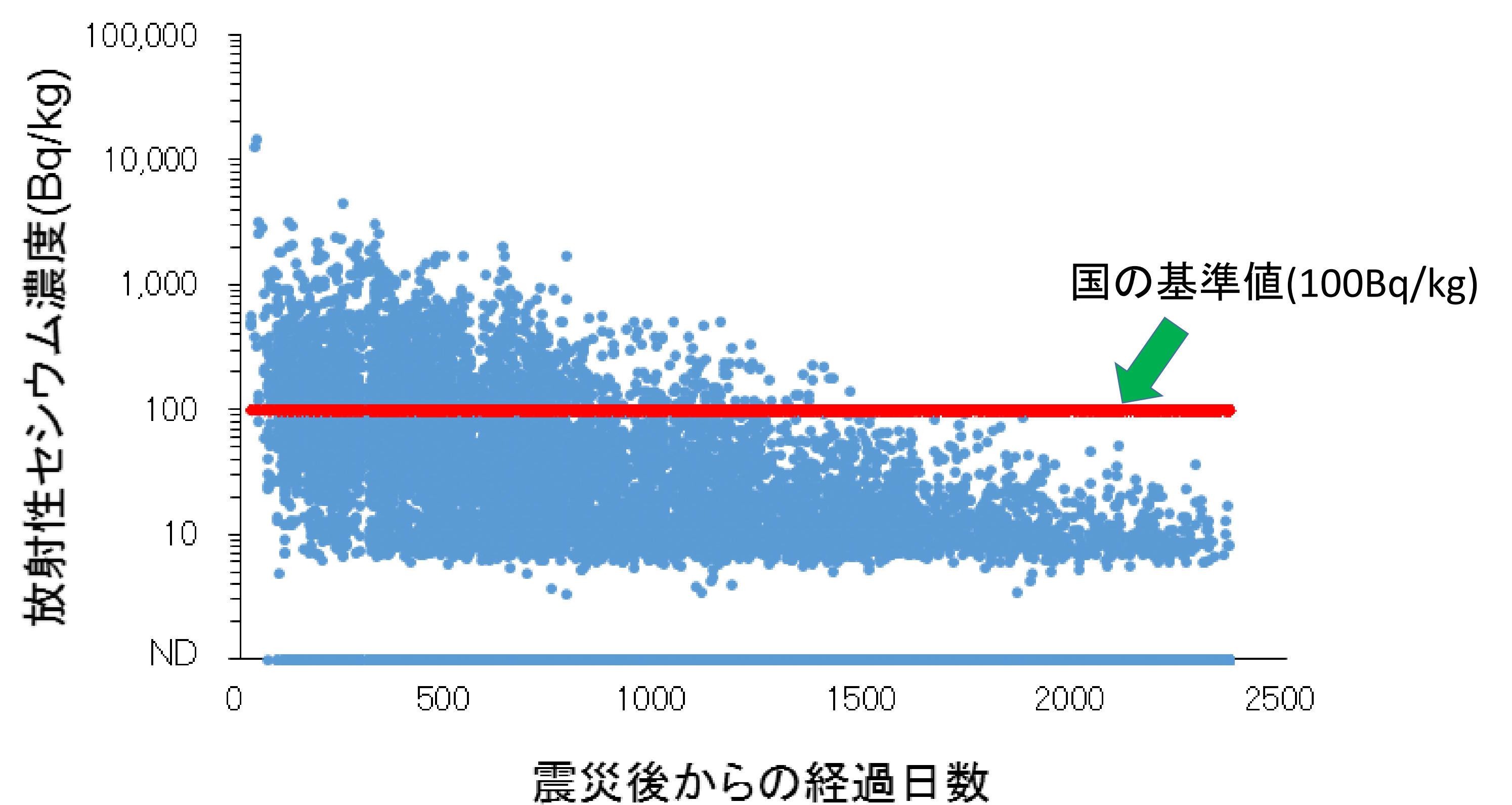


図 海産魚介類の放射性セシウム濃度推移

震災当初、魚介類の放射性セシウム濃度は非常に高い値を示しました。しかし、放射性セシウム濃度は急激に低下し、平成27年4月以降、国の基準値を超える値は確認されていません。また、不検出の割合は、近年95%以上となっています。

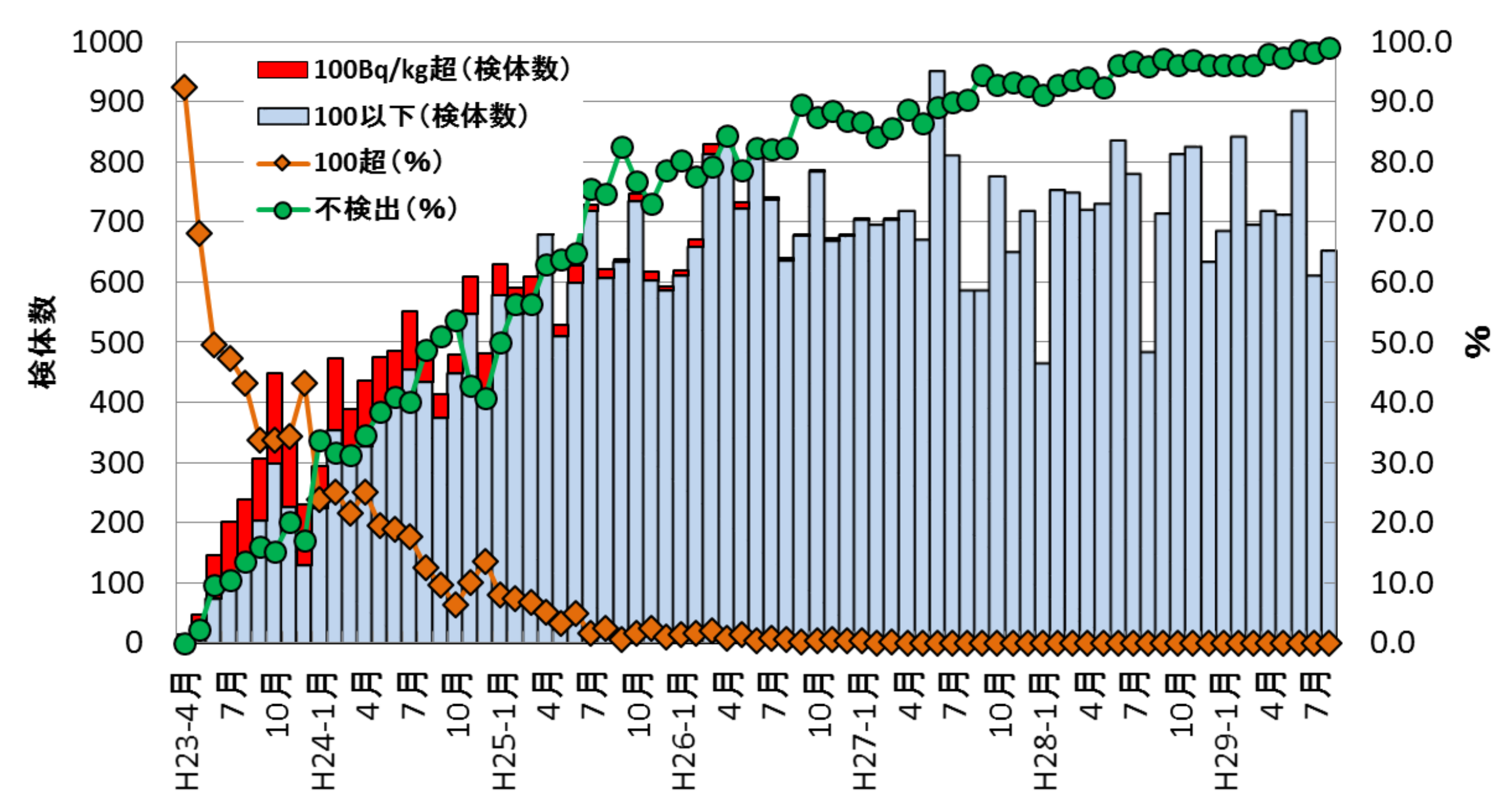


図 月別放射線モニタリング検査結果(海産魚介類)

## 海産魚介類に関する国の出荷制限等指示の現状

10種類 H29.10現在

表 出荷制限魚種一覧

ウミタナゴ	シロメバル
カサゴ	スズキ
キツネメバル	ヌマガレイ
クロダイ	ムラソイ
サクラマス	ビノスガイ

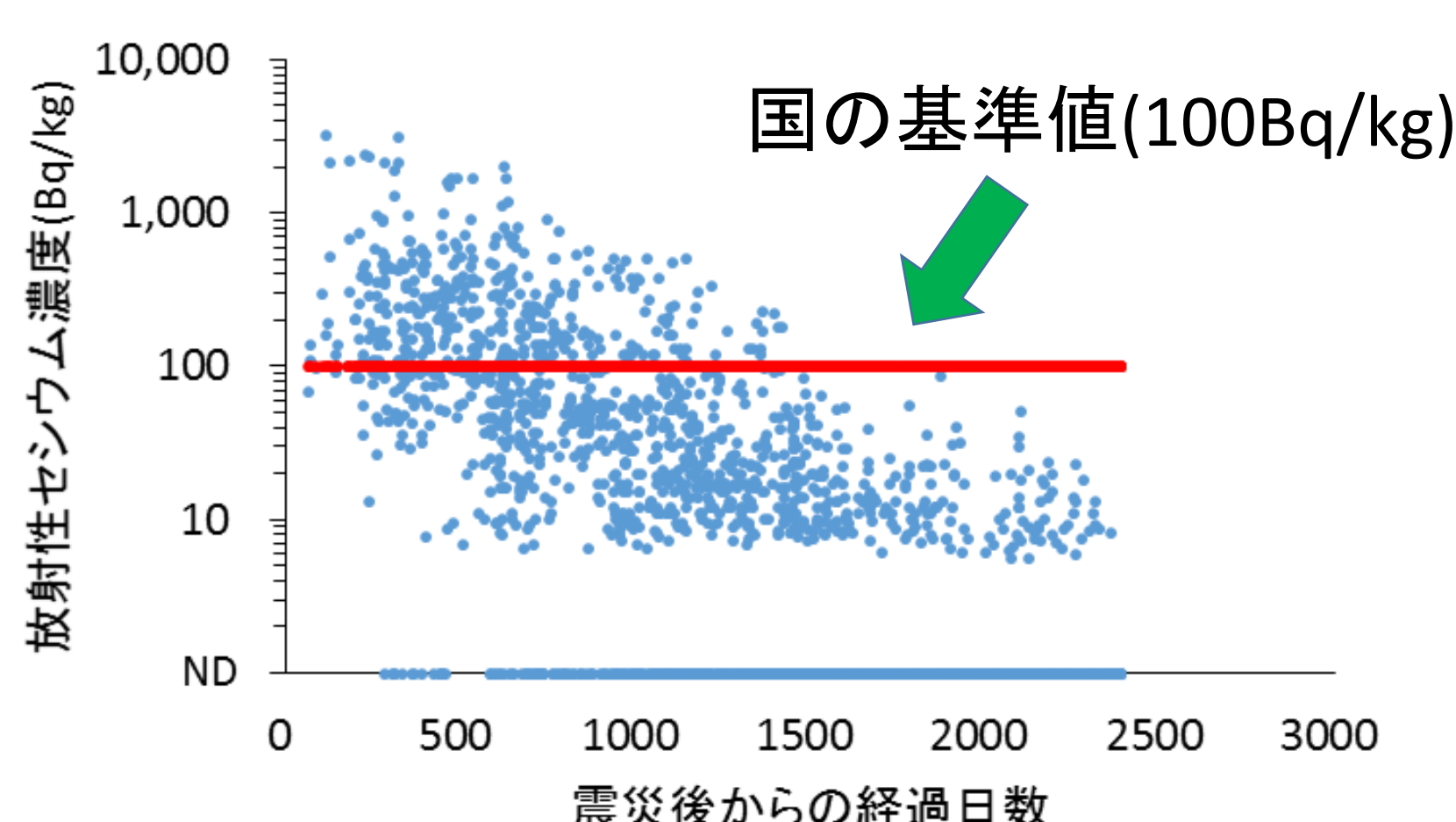


図 出荷制限魚種の放射性セシウム濃度推移

現在、出荷制限が10魚種でかけられており、これらの魚種については市場に流通していません。

しかし、出荷制限魚種においても、近年は100Bq/kgを超えていないことをモニタリング検査で確認しています。

出荷制限魚種については、検体数が足りていないことや以前に高い数値が出た場所で、再度検体が捕獲されていないことから、解除が遅れている状況です。